

令和3年度 決算報告書

国立大学法人筑波技術大学

(単位:百万円)

区 分	予算額	決算額	差額 (決算-予算)	備考
収入				
運営費交付金	2,248	2,324	76	(注1)
施設整備費補助金	58	58	0	
船舶建造費補助金	—	—	—	
補助金等収入	64	84	20	(注2)(注3)
大学改革支援・学位授与機構施設費 交付金	15	15	—	
自己収入	279	290	11	
授業料、入学科及び検定料収入	162	159	△ 3	(注3)
附属診療所収入	73	79	6	(注4)
財産処分収入	—	—	—	
雑収入	44	52	8	(注5)
産学連携等研究収入及び寄附金 収入等	53	67	14	(注6)
引当金取崩	—	—	—	
長期借入金収入	—	—	—	
貸付回収金	—	—	—	
目的積立金取崩	136	216	80	(注7)
計	2,853	3,055	202	
支出				
業務費	2,695	2,731	36	
教育研究経費	2,544	2,554	10	(注8)
診療経費	151	177	26	(注9)
施設整備費	73	73	0	
船舶建造費	—	—	—	
補助金等	31	47	16	(注10)
産学連携等研究経費及び寄附金 事業費等	53	39	△ 14	(注11)
貸付金	—	—	—	
長期借入金償還金	1	0	△ 1	
大学改革支援・学位授与機構施設費 納付金	—	—	—	
計	2,853	2,890	37	
収入-支出	—	165	165	

○予算と決算の差異について

- (注1) 運営費交付金については、計画時に想定していなかった前年度からの繰越分及び授業料等免除経費や特殊要因運営費交付金のうち年俸制導入促進費、退職手当の追加配分があったことにより、予算額に比して76百万円の増となっています。
- (注2) 補助金等収入には、計画時に想定していなかった国立大学改革強化推進補助金、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止・医療提供体制確保支援補助金の交付があったため、予算額に比して20百万円の増となっています。
- (注3) 補助金等収入に記載の授業料等減免費交付金は37百万円であり、授業料等免除に使用しております。また、その同額を「授業料、入学金及び検定料収入」から控除しております。
- (注4) 自己収入のうち附属診療所収入については、患者数が昨年比に3.2%増加したことにより、予算額に比して6百万円の増となっています。
- (注5) 自己収入のうち雑収入については、主として当初の想定より入居者が増加したことに伴う寄宿料収入の増加により、8百万円の増となっております。
- (注6) 産学連携等研究収入及び寄附金収入等については、新規の受託事業の受入や寄附金受入額の増加により、予算額に比して14百万円の増となっています。
- (注7) 目的積立金取崩については、教育研究活動への支出に充てており、当初の計画より多くの事業を実施したため、予算額に比して80百万円の増となっています。学務情報管理システム構築事業やエレベーター設備更新事業、学生寄宿舍環境整備事業等を実施しています。
- (注8) 業務費のうち教育研究経費は、当初予定していなかった運営費交付金の繰越分や目的積立金の執行が増加したことに伴い、予算額に比して10百万円の増となっています。
- (注9) 業務費のうち診療経費は、当初予定していなかった退職金の支払いなどにより、予算額に比して26百万円の増となっています。
- (注10) 補助金については、計画時に想定していなかった国立大学改革強化推進補助金の執行があったため、予算額に比して16百万円の増となっています。なお、授業料等減免費交付金37百万円の執行は、授業料免除の実施により「授業料、入学金及び検定料収入」に充当したものと、支出区分の「補助金等」には計上しておりません。
- (注11) 産学連携等研究経費及び寄附金事業費等については、当初の想定より寄附金事業費の執行が減少したことにより、予算額に比して14百万円の減となっています。